

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100990		
法人名	(株)ピッチ&パッチ		
事業所名	グループホームよいしよ!春採		
所在地	釧路市春採1丁目14番6号		
自己評価作成日	平成24年7月15日	評価結果市町村受理日	平成24年9月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眼下に春採湖を望み、四季折々の自然を楽しむことのできる景観豊かな環境と、利用者様が安らぎを持って生活できるよう、もう一つの我が家として、安全に安心して暮らせるよう支援しております。笑顔や喜びのある生活を提供できるよう、それぞれの趣味や身体機能に合わせ、園芸や散歩、カラオケなどのアクティビティや、毎月の行事を企画し、常に飽きない刺激ある生活ができますよう心掛けております。
ご利用者様の居室やホールはアロマオイルを使い、香りによって心身が健康に過ごして頂けますよう、癒しの空間づくりをしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釧路市街の春採湖を眼下に眺める見晴らしの良い住宅地に位置する2階建て2ユニットの事業所になっています。運営法人が最初に設立した事業所で、隣には生活介護事業所レニソウ(障害者のデイサービスセンター)が開設し、災害時には避難所となり、防火水槽を完備して地域に貢献しています。施設長は各事業所の職員教育も担当しており、会社として職員の資格取得の助成をする等職員育成に力を注いでいます。利用者が笑顔でサポート、誰もが集える楽しい我が家と掲げられた理念は、会社の理念“世の為 人の為”がベースと成っており、利用者に笑顔で接するよう心掛け、理念実現に向けて家族との良い関係、地域との連携を保ちながら、利用者個々に合わせたアクティビティの実施に努め、利用者の個別支援に取り組んでいます。地域とのつながりの中で常に開かれた事業所を目指しており、事業所行事に地域住民を招待したり、認知症サポーター養成講座を行う等地域貢献に努めています。暖炉が設置された居間は明るく、穏やかさと懐かしさを演出する、居心地良い暮らしを提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でサポート。誰もが集える楽しい我が家」の理念を玄関に飾り、職員が毎日意識できるようにしています。利用者様、ご家族様に笑顔で接するよう心がけ、ホームが家のように居心地良く感じられるよう努めています。	笑顔でサポート、誰もが集える楽しい我が家の理念を掲げ、利用者が笑顔で楽しい生活が送れるよう支援をする事と、利用者の希望を入れつつアクティビティの充実を図る等、個別支援に取り組んでいます。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時など、近隣の方とお会いした時には、挨拶やお話をさせて頂いています。町内会行事には、積極的に参加させて頂き顔なじみの関係を築けるよう心がけています。	町内の一斉清掃に参加したり、散歩しながらゴミ拾いをし挨拶を交わしています。事業所の行事に地域住民を招待したりと相互交流に努めています。地域にボランティアを頼みし慰問に訪れたり、避難訓練にも積極的に参加するなど、地域に開かれた関係を気づいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、行事のボランティアをお願いしたり、避難訓練に参加して頂き、利用者様と接する時間を多く持つことで認知症の理解を深めてもらっています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム内の様子や取り組みを報告し、地域の方や家族の方の意見を参考にさせて頂き、行事に活かしています。	地域包括・民生委員・地域住民・家族などが参加し概ね2か月に一度開催しています。家族に参加の呼びかけを行い、議事録の内容を手紙で知らせています。会議では事業所の状況説明や行事予定、災害訓練に付いて等話し合わせ、災害訓練に地域住民の参加を得て実施しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や運営推進会議に参加して頂き、ホームの状況を把握して頂けるよう努めています。ケアの相談にものってもらい、協力して頂いています。	行政とは常に関わりを持ちながら、情報交換や相談に努め、運営やサービスの向上に反映しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体、薬、スピーチロックの禁止を職員全体で徹底しています。玄関はタッチパネルを使用しているため、利用者様が「出られない」と思うことがないよう職員が気持ちを察し、ケアに取り組んでいます。	内部研修として身体拘束の事例検討、周知徹底を図っています。事例を検討しケアの見直しをすることで、サービスの質の向上に繋げています。玄関の施錠は夜間のみとなっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は利用者様の体に異変があった場合は、生活記録に記載し、管理者、看護師、職員全体が情報を共有し、原因を明確にしています。また、スタッフ会議で安全なケアができるよう確認しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれが、介護福祉士等の勉強をする中で学び、キーパーソンのいない利用者様の看取りのケアをする中で、担当者との話し合いを持ち、活用することができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、管理者が利用者様とご家族に十分な説明を行っています。また、退去時においても安心して退去できるよう支援しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、ご家族の来設時に、意見、要望を伺い職員間で話会い、利用者様の生活に活かすようにしています。	電話や家族の面会時に利用者の様子を伝え、意見要望等なんでも言える様に努めています。意見要望があった場合は職員で共有し運営に活かす様努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体会議や臨時のフロア会議で、個々の職員の意見、要望を聞き反映するよう努めています。	管理者は全体会議や日常業務の中で、個別に意見を聞く機会を設け職場環境の整備に反映させて、職員の意識の向上に努めています。	外部研修に参加した内容を内部研修で他の職員と共有する事と、ユニットごとに自己評価への取り組み・目標達成に向け取り組むことを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を把握し、働きやすい時間の勤務を可能にしています。昇給やボーナスを支給したり、有給の取得にも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修や資格取得の機会を設け、費用面でも援助しています。今後も管理者研修の受講を予定しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の交流はあまりないので、今後は機会を設け交流したいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談で、現在の生活の様子を伺い、スタッフミーティングを行い今の状況を確認し、その人らしく生活できるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様と面談し、不安な事、求めていること、困っている事を伺い、ケアに活かしご家族様との信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、看護師、ケアマネが対応し、ホームの中でどんな支援が必要なのかを考え、ケアプランを作成し、職員全体で共有し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、調理の手伝い、盛り付け、畑仕事など本人のできる事や、したい事を職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問を大切に、利用料の支払いは振り込みに限定せずお持ち頂き、その際に利用者様の様子を伝え、一緒に支える関係を築いています。また月初めには、写真、担当職員からのお手紙を送付し、ご本人の様子を詳しくお知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の行きつけの商店や美容室と一緒に行くようにはしています。また、思い出の場所にドライブに出かけるなどしています。	利用者の生活歴を大切に聞き取り、友人、親戚の訪問や行きつけの店、馴染みの場所にドライブに行く等関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りお手伝いを一緒にして頂いたり、調理、買い物等を通じて、自然に支えあえる関わりができるよう努めています。また歌やレクリエーションを通して楽しみを共有できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても本人や家族の心のケアを大切に、相談があった時は支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にその人らしい生き方を考え、またできる限り、本人の希望を考慮し、身体状況に合わせた支援をしています。	利用者の生活歴の把握や、日々の言動・表情から意向や希望の把握に努め、生活記録に記入し情報を共有して、利用者の生活が充実しその人らしい笑顔で暮らせる様取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様からの情報や、普段の利用者様の会話からも情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人に声掛けをし、表情や体調の観察をし、記録や申し送りなどから、現在の状況を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の担当職員とケアマネが協力してケアプランを作成し、月1回の職員会議でプランに沿ったケアが行われているか検討し、モニタリングしています。またご家族様の訪問時には、意見、要望等を伺っています。	家族への電話連絡や訪問時に要望を聞き、介護計画作成に反映させると共に、毎月全体会議の中で利用者全員のモニタリングに取り組み、職員の意見も取り入れたケアプランを作成しています。見直しは3~6ヵ月毎に、状況に変化があった場合は、直ぐに介護計画の変更を行なっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、生活記録、気づきシートに記入し、疑問点などの話し合いをし、介護計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が同行できない通院介助や、本人が希望する買い物があるときは、職員と一緒に買い物を楽しんだり、美容室などもその都度一緒に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事(盆踊り、大掃除)に参加しています。又ホームの避難訓練には地域の方に呼びかけ手伝って頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医、又は本人家族の希望したかかりつけ医に診て頂いています。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関と連携し、適切な医療が受けられるよう支援しています。状況に応じ職員も同行し情報を共有しています。また、看護師による健康管理も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の体調や様子を看護師に伝え指示、助言を受けながら介護しています。怪我、発熱の時など看護師の指示の元病院に受診しています。夜間帯の緊急の場合も電話連絡し、指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が交代でお見舞いに行き、少しでも安心して頂けるよう心がけ、その際、病院看護師との情報交換もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医師の説明を受け、御家族様、利用者様との話し合いを持ち、そのらしい終末期を迎えられるよう、その人の気持ちに沿った方針を共有し支援しています。	重度化した場合や終末期への対応に関わる指針書を作成し、利用開始時に家族に説明し同意書を交わしています。今までに看取りを経験しており、家族や医師、看護師と連携を図り、情報を共有しながら全職員で常に最善の方策を協議し支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などで、緊急や事故発生時の対応などの話し合いを行っています。今後、AEDの使用の仕方、人口呼吸の仕方などの講習会を予定しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回5月と7月に避難訓練を実施する中で、緊急時の職員連絡網の確認、避難方法の確認をしています。地域の方にも参加をお願いし、協力して頂いています。	消防署協力のもと、年2回の避難訓練を実施しています。7月の訓練時には地域住民7名が参加し屋外誘導と利用者の見守りをお願いし実施しています。訓練後の話し合いでは、多くの意見を聞き今後の訓練に活かせるよう努めています。	火災だけではなく地震や津波、いつ起こるか分からない災害に対して、自家発電装置を設置しています。また、隣接施設にも消火水槽を設置し対応できていますが、さらに繰り返し訓練の実施、備蓄品や持出し書類の整備に取り組むことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の気持ちを持ち、対応させて頂いています。たとえば、トイレの誘導の際は、周りの方に気づかれないよう配慮し、声かけをしています。	日頃から、どのような対応や言葉かけが最善か意識し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、利用者一人ひとりの気持ちに寄り添った丁寧な支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の時間をもち、さりげなく好みを聞いたり、できるだけ本人の思いに沿った生活ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、消灯時間を決めず、その方の体調やペースに合わせて生活して頂いています。外出、散歩、入浴などもできるだけ、利用者様の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の洋服はできるだけ自分で選んで頂き、職員と一緒に身支度をしています。外出の時はお化粧、髪型を整え、おしゃれを楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせたり、栄養面や見た目にもこだわり調理しています。又利用者様にもお手伝いして頂き、作る喜びを感じて頂けるようにしています。	担当職員が利用者の嗜好や季節を考慮した献立を作成しています。検食簿を作成し、栄養バランス・味付け・硬さ、利用者の様子を書き込み、今後の献立に活かしています。外食に出掛けたり、出前を取ったり利用者が楽しく食事ができるような工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、持病、嚥下状況、体重を考慮し、食事量、形状(キザミ食、お粥)を個々の利用者様に合わせ提供しています。水分摂取量の少ない方には小まめに勧めたり、咽のある方にはトロミを付け提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回声掛けをし、口腔ケアの支援をしています。就寝時は、入れ歯洗浄剤なども使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう時間を見てトイレ誘導をしたり、日常生活を観察しトイレサインを感じとり、誘導をしています。	利用者一人ひとりの排泄記録をとり、声かけ、誘導、介助により、可能な限りトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時や空腹時に、水、牛乳、野菜ジュースなど好みの物を飲んで頂いたり、昼食時にはヨーグルトを付けています。個々の排泄表を作り、排便間隔が長くないよう看護師に相談し、服薬により排便を促しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に応じ入浴をして頂いています。声かけをし、拒否された時は、無理強いせず、翌日に入ってもらっています。	利用者のその日の体調や希望を確認し、多い人で毎日、少ない人で週2回は入浴できるよう努めています。入浴拒否する利用者には、タイミングを見ながら声かけしたり時間帯を工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、個々のペースに合わせて支援しています。日中の生活の様子を職員間で共有し、その方が眠りやすい場所で、休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ファイルを作り、用法、用量を把握しています。氏名、日付け、朝昼夜、を確認し飲み終えるまで見守りしています。症状に変化があった時には、看護師に伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の支度、盛り付け、食器拭き、縫い物など個々の好きなお手伝いをお願いし、感謝の気持ちを伝え満足感が持てるよう支援しています。また、歌の時間を設けたり、風船バレーで体を動かして頂くなどの気分転換も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良く暖かい日は、ドライブに出かけて外気浴をしています。普段から利用者様の行きたい場所を聞いて、できるだけ行けるよう支援しています。	日常的に散歩や天気の良い日には動物園等にドライブに出掛けています。利用者の希望に沿うように心掛けており、1泊温泉旅行に出かけカラオケや卓球、皆で囲むお膳料理やゆっくり浸かる温泉など楽しい行事に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様と相談し、自分で持っている方と預かっている方がいます。ショッピングの行事を設けたり、普段から一緒に買い物に出かけ、お金が使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの電話や手紙は、その都度やり取りができるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器の音、調理場の水音、声、職員の足音、ドアの開閉など、不快な音が出ないように気を付けています。1日に2回時間を決め温度と湿度の測定をしています。フロアには行事や日常生活の写真、季節感のある飾り付けを工夫しています。また、アロマオイルを使用し心地良い空間づくりをしています。	共有空間は明るく広く開放感があり、リビング兼食堂から見える景色は春採湖が一望でき季節を感じることができます。また、温度や湿度、不快な音等にも注意が払われており、居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、好きな場所のソファーに座って頂いたり、テレビ鑑賞、新聞を読む、縫い物をするなどをして過ごして頂いています。職員と一緒にゲーム等も楽しんで頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の馴染みの物、本人が使い慣れた物を置いたり、御家族様の写真を貼り落ち着いて過ごせるようにしています。	利用者がこれまで大切にしてきた写真、家具のほか、家族の意向に添った調度品などを持ち込み、一人ひとりの個性が反映された安心感のある居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、車椅子での移動ができるようになっています。玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されています。トイレの場所が分かりやすいよう紙に大きく書き、表示しています。		